

# 不完全否定を表す副詞の日中対照研究

陳 澤佳

## A Comparative Study of the Adverbs that Express Partial Negation in Japanese and Chinese

CHEN Zejia

### 概要

漢日語言中都有表達量和程度的不完全否定的副詞。日語的不完全否定副詞具有兩面性，按研究的側重點常被歸類為“陳述副詞”或“程度副詞”，但單單歸為任何一個類別都是不全面的。漢語則是將否定詞置於程度副詞或範圍副詞前，從而實現不完全否定。本文認為它們的“部分減量”的意思同一性以及句法類似性使得它們具有對照研究的價值。縱觀前人的研究成果，各語言本體內的比較研究和漢日語言間的個別對照研究成果丰硕，但尚未有以不完全否定句為重心的、體系化的漢日對照研究。加之各個分散的研究中對其語義句法的分析又存在諸多問題，筆者認為急需對表達不完全否定的副詞進行一次語義句法方面的全面的對比探討，以期能加深對漢日副詞的理解和體系化構建。

本文將考察對象鎖定在日語的“あまり”“大して”“めったに”和中文的“很”“太”之間，基於大量的實例調查，從共起指向、語義面、句法面這三個側面對五個詞在不完全否定句中的特徵進行了較為詳實的對比分析，在一定程度上彌補了前人研究的不足。

キーワード：不完全否定、副詞、日中対照、共起、量性

## 1. はじめに

Jespersen (1924: 469-470) は人類の言語の否定詞の意味は全て減量 (less than) であるとの指摘がある。この言葉を「完全否定はゼロまで全減量で、不完全否定は部分減量である」というふうにも受け止める。日本語の不完全否定を表す副詞は呼応の仕方から陳述副詞か否定副詞かと呼ばれているが、意味的に量・程度ということがら性が前面に出されているため、程度副詞と呼ばれることも多い。本稿は、それらの副詞を「程度性」と「評価性」という二面性があるものとし、帰属問題を検討する代わりに、意味上の「部分減量」という特徴に注目して考察を進めたいと思う。さて、本稿が取り上げる日本語における不完全否定を表す副詞は以下のようなものである。

- 1) あまり時間はない。(『悪い種子が芽ばえる時』)
- 2) 1991年にはスマート爆弾が話題になったが、それらは大してスマートではなかった。(『国際法から見たイラク戦争』)
- 3) その電話が使われることはめったになかった。(『ロケットボーイズ』)

例1) は、時間が全くないというわけではなく、時間にゆとりがなく、ちょっと足りない状態だという部分減量の意味で、例2) は、スマート爆弾は全然スマートではないというわけではなく、スマートではあるが、スマート度は高くないという部分減量の意味で、例3) は電話を全然利用しないというわけではなく、利用頻度は極めて低いという部分減量の意味である。例に挙げた三つの副詞のほか、指示副詞「それほど・そんなに・そう・さほど」もあるが、今後の研究に譲ることとする。

不完全否定は通言語的なもので、中国語でも不完全否定を表す副詞がある。中国語は孤立語で、語順が意味の大きな決め手となるので、語形変化の多い膠着語である日本語とは大きく異なる。中国語の否定詞は

副詞の前か後ろか、置く位置次第で意味が変わる。不完全否定の場合は、主に“很”<sup>1</sup>“太”という絶対程度副詞<sup>2</sup>が否定詞“不”などを前にして、その機能を担う。例えば、

4) 但是有些青年同志在学习中间, 也还不很了解机关青年究竟应该如何为总路线服务, 怎样贯彻总路线的问题。(《机关青年如何为贯彻总路线而努力》)

5) 她文的不太行, 但武的却很出色。(《文学的反思》)

例4)は、その問題について全くわからないというわけではなく、わかる程度が低く、理解をさらに深める必要があるという部分減量の意味で、例5)は、彼女は全然できないというわけではなく、得意ではないという部分減量の意味である。絶対程度副詞のうち、“很”“太”だけが否定詞の後ろに立って、不完全否定を表すことができる。<sup>3</sup>

“很”“太”の他、“统括副词”<sup>4</sup>の“都”“全”“完全”も否定詞の後ろに来て、不完全否定を表すことができる。これらの「否定詞+統括副詞」は「全ては〇〇とは言えない」という意味になり、日本語の陳述副詞による程度の不完全否定と異質のもので、「必ずしも～ない」「～わけではない」「～とは限らない」「完全な～ではない」などの複合的否定形式との対応性が見られるため、本稿の研究対象外となる。

以上のことを踏まえて、本稿の研究対象は、ともに「部分減量」とい

1 本稿で出現する中国語は全て「 ” 」で示す。

2 「絶対程度副詞」は中国語の文法上の概念で、程度副詞を“相对程度副詞”と“绝对程度副詞”に分けるという王力(1985)の分類法である。比較対象を持つ“比较”“更加”などは“相对程度副詞”とされている。渡辺実(1990)が日本語の程度副詞に対する分類と簡単に対照的に見ると、“绝对程度副詞”はほぼ「とても類」に、“相对程度副詞”はほぼ「もっと類」に対応している。

3 “有点”など微量を表す副詞や“极”など極大量を表す副詞は否定詞の前にしか立たない。大量を表す“非常”“相当”“挺”も基本的に否定詞の前に立つ。李宇明(2000)は程度副詞を程度の度合いから(大から小へ)“极>非常>相当>挺>很”のように配列している。“很”の左に位置する副詞は基本的に否定詞の前に来て、程度の不完全否定を表すことができない。

4 範囲の統括を表す副詞のことである。「全部・すべて」の意味である。

う不完全否定を意味する日本語の「あまり」「大して」「めったに」と中国語の“很”“太”に焦点を当てることにする。本稿は大量な言語事実による立証が必要なので、四つのコーパスから例文を収集している。それぞれは、日本語の『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』（日本国立国語研究所）、中国語の『語料庫在線 (現代中国語均衡コーパス)』と『北京語言大学大數據与語言教育研究所 BCC コーパスネット版』、そして『中日対訳コーパス (第一版)』（北京日本研究センター 2002)である。

## 2. 先行研究

中日学界においては、不完全否定を表す副詞については、否定構文<sup>5</sup>に重心を置き、体系的に、意味・構文的特徴からの全面的な日中対照研究はまだないように見受けられる。日本語の不完全否定を表す副詞は陳述副詞や程度副詞に纏わるという特殊性から、学者によって陳述副詞に置かれたり、程度副詞に置かれたりして、それぞれの母語範囲内の比較検討（工藤真由美（1999, 2000）、時衛国（2003, 2011）など）または個別的な日中対照研究（時衛国（2009）など）が多くなされていて、どれも一面寄りで全面的な研究とは言えないように思われる。本稿の研究対象を論じた先行研究は多いが、幾つかの成果を取り上げて説明する。

森田良行（1989）は「あまり」の否定構文での意味を「否定形を呼応する形式：数や量が予想できる場合は少数・少量であることを、程度を問題とする場合は『さほど』『たいして』の意となる」というふうに論じている。氏は「あまり」と「大して」の関連しているところは程度を

<sup>5</sup> 本稿は否定詞で表記する否定の意味を表す典型的な否定形式を中心に検討することにする。つまり、主に日本語の「ない」による文法的否定形式と中国語の“不”“没(有)”による否定文を考察対象とする。

問題にする場合と指摘したが、具体的にどのように意味的に共通性を示しているのかについては触れていない。また、「あまり」は頻度限定用法もあるが、数量・程度・頻度での「大して」などとの意味関連を全面的に分析する必要がある。

服部匡（1993）は「あまり」の「あまり美しくない」のような否定用法を「弱否定型の用法」と呼び、その場での「あまり」は「そんなに、そう、それほど」や「さほど、さして」などと意味を大きく変えずに置き換えられることが多いと指摘した。氏の提唱した「弱否定型の用法」について全く同意ではあるが、どれくらいの量が否定されているのか、また同じ用法を持つ「大して」「めったに」との意味的関連はどのようであるかについて、さらに検討する必要があると思われる。

時衛国（2009）は「太」と「あまり」の意味と共起制限の異同について述べたが、基本的に肯定構文を中心に考察した。否定構文では“太不”形式の検討に偏って、“不太”については「プラス評価を表す被修飾語でもマイナス評価を表す被修飾語でも修飾しうる」、「了」との共起は必須でないという二点だけを提示した。一方、「あまり」の部分否定の場合についても「動詞・形容詞の否定形式とそのまま共起し、強い制限を受けない」と触れたまでである。

また、工藤真由美（1999, 2000）も「たいして、あまり」は形容詞述語と動詞述語と共起し、「めったに」は動詞述語のみと共起することだけを提示することにとどまって、具体的に各述語にさらに共起制限があるか否かについては論じなかった。また、詳しく、名詞述語と共起する場合も検討する必要がある。

紙幅の関係で、個々の先行研究を多く見ていくことができないが、各言語内部の比較研究においても、言語間の対照研究においても意味・構文面での問題点が多く、全面的な検討が差し迫ると考えられる。

本稿の考察手順として、まず日中の副詞の共起指向（否定・肯定との共起傾向）を論じ、全面的に使用環境を把握する。次に、意味面や構文面での対照研究を詳細に行うことにする。

### 3. 不完全否定を表す副詞の共起指向の日中対照

日本語の「あまり」は否定述語との共起は主な働きであるが、肯定文でも構文的制限を受けながら共起できる。<sup>6</sup>肯定文での「あまり」は、従属節に現れたり、「あまりに（も）」の形で現れたりして、必ず構文的制限を受ける。「大して」「めったに」は否定のみと共起する。<sup>7</sup>

6) a. あまり好きではない/\*<sup>8</sup>好きだ。

b. あまり食べると太るよ。

c. あまりに（も）ひどすぎるよ。

7) 大して寒くない/\*寒い。

8) めったに行かない/\*行く。

「めったに」は極めて少ない様（特に頻度に対して）という微量を表すもので、否定のみとの共起は予想されるが、辞典では「大して」と「あまり」はともに程度の甚だしい様を表すものとされるので、「大して」は「あまり」のような肯定文の従属節に現れる用法がないのはなぜか。実は量・程度の度合いの面において、「大して」は「あまり」よりさらに上回る。例えば、

6 「あまり」について、BCCWJで無作為に抽出した500例のうち、「あまりの～」「～あまり」など副詞的用法ではないものを除いた有効例は434件である。そのうち、否定との共起例は299件であるのに対し、肯定との共起例は135件である。

7 「大して」については、BCCWJで「たいして」を検索文字に無作為に抽出した500例のうち、「に対して」などを除いた有効例は116件である。116件では全部、否定と呼応する形で使われている。「大して」を検索文字に無作為に抽出した500例の中で、まず、「拡大・増大」などを除いた有効例は97件である。そして同様にすべては否定と呼応する形で使われている。次に「めったに」については抽出した例全部は否定と呼応する例である。

8 「\*」は非文法的を示す記号である。

9) 大して仕事をしていないのに、彼は給料を上げると言う。そういうことは、給料に合った仕事をしてから言って欲しい。(Google)

10) あまり仕事をしていないのに…

上の例文においては、仕事をした量をもし、ゼロ、少量、平均量、大量のように分ければ、「大して」の方は平均量、もしくは平均量を上回り、大量まで行かない量を表している。「あまり」は少量、もしくは少量を下回り、ゼロまで落ちていない量を表している。量的特徴<sup>9</sup>は明らかに違う。したがって、この量的特徴も一つの原因で、あまりは条件付きで肯定文にも用いられ、大しては否定文にしか用いられないという状況へ導いたのではないかと思われる。詳しいことは通時的な研究が必要なので、今後の課題に譲ることにする。

一方、中国語の程度副詞の“很”“太”は肯定・否定ともに共起できる。肯定との共起も「あまり」ほど制限を受けない。

11) 工作不很出色 / 很出色。

12) 期望不太高 / 太高。

#### 4. 不完全否定を表す副詞の意味面の日中対照

前も述べたが、不完全否定を表す副詞は「部分減量」ということで否定文脈の客観的な意味を量・程度の面から修飾できるものであり、否定文脈からそれらの語を取り出し、文脈の意味も一定の程度に変わる。

山田小枝(1997: 94)は「あまり・大して」を「程度修正のNPI<sup>10</sup>」とし、一方の項を否定してもそれが対立項を指すことにはならないことを示すのである。例えば、「あまり明るくない」を例にとると、「明る

<sup>9</sup> 数量だけでなく、頻度・程度の具合も量化できるので、量的特徴の一つであると看做す。

<sup>10</sup> NPI (negative polarity item) とは否定対極表現で、ほとんど否定文あるいは否定環境に用いられる表現のことである。否定極性表現とも呼ばれ、本来は英語から訳した語である。

い」という性質を完全に否定して、「暗い」になるわけではなく、「すこし明るい」になるのである。否定によって完全な反転が生じるのではなくて、対立軸上での移動が起こるだけであると述べている。筆者はさらに「めったに」を加えて、三つの語を「量的修正のNPI」とする。

中国語の方は量的修正の機能を有する程度副詞で、NPIではない。例えば、下記の二例の“很”“太”を取り除くと、それぞれ「総路線のために何をどう奉仕すべきかということがわからない」という意味、「彼女は学問ができない」という絶対的、強い否定の意味になる。しかし、文脈によって、量の修正はいつも内容をより正確に伝えるためではなく、否定的な判断・意見などを婉曲に伝えるための場合もある。それら二例は、“很”“太”を付け加えることによって、語勢が和らげられ、もっと聞き手側の気持ちを重視した文になる。

13) 但是有些青年同志在学习中间, 也还不很了解机关青年究竟应该如何为总路线服务, 怎样贯彻总路线的问题。(《机关青年如何为贯彻总路线而努力》)(例4)の再掲)

14) 她文的不太行, 但武的却很出色。(《文学的反思》)(例5)の再掲)

不完全否定を表す副詞は同様に量的修正ができるとは言っても、修正した後の量の度合いは違って、一つの量的序列になっている。これから、二節をかけて、その量的序列や婉曲の用法について詳しく検討していく。

#### 4.1 否定構文での量的序列

井島正博(2013:17)は、「あまり・それほど・大して・さして」などを否定専用の程度副詞と見做し、それらは「大変・非常に・とても・かなり・ずいぶん・結構」など肯定専用の程度副詞ほど意味の分化が進んでいないと述べている。前の分析から「大して」と「あまり」に意味

の差があることがわかることから、この指摘の正しさについてももう一度検討すべきである。

まず、同じ文脈での意味の差について検討する。本田キョウ治(1981)は「あまり」は否定構文に使われた場合には、文中に何らかの形で含まれている数量、程度、頻度などの概念と結びつき、数量、程度、頻度が想定していた地点に達していないといった意味を表すと述べている。「あまり」は程度・数量・頻度いずれも修飾できるのに対し、「大して」は程度(主要)・数量だけを限定し、「めったに」は頻度だけを限定する。

#### ①程度限定

- 15) a. 一方、二酸化窒素は先進国の都市の中で東京は濃度の高い方に属し、しかも80年からあまり改善されていない(第I-4-16図)。(『国民生活白書』)
- b. 大して改善されていない。
- 16) a. 彼が金曜日の夜に家に帰ってこなかった、と言ったんです。初めのうちは、たいして深刻には考えませんでした。でもやがて、彼が事故にあったか病気にでもなったんじゃないかな…(『危険のP』)
- b. あまり深刻には考えませんでした。
- 17) a. こんなどこにでもいるような、どうでもいいごく普通の一年生のことなんか、私は大して興味もなにもないから。(『護くんに女神の祝福を!』)
- b. 私はあまり興味も何もないから。

この三例は「大して」と「あまり」は相互に取り替えても、意味的に差が感じられないようであるが、「大して」の方は避難・軽蔑なニュアンスを帯びている。

②数量限定

- 18) a. 花粉は風に運んでもらうので、虫があまりいない時季に花を咲かせても心配ありません。(『広報ところざわ 2008年02号』)
- b. 虫がたいしていない時季。
- 19) a. …星座の名前をあんなに夢中になって覚えたというのに。今は思い出せる星の名も大して無い。(『楽園の日々』)
- b. 今は思い出せる星の名もあまりない。
- 20) a. 最高級ワインをたらふく飲みくらべるのに、たいして金のかからない方法がある。(『地球・道具・考』)
- b. あまり金のかからない方法がある。

この三例は文脈によって、「大して」と「あまり」は相互に取り替えると意味的に差が感じられるようである。例18) a では、虫がほとんどいない状態、あるいはかなり少量な状態であることを含意しているが、bでは、虫が少量あるいは中量な状態で、心配するほどの多量状態ではないことを含意していて、気にすることは無いという主観的な意味も読み取れる。例19) a は、昔の状況とは対比的に、今は昔ほど多量な星の名を思い出せない状態で、自分をあざけて感嘆する気持ちも含意されている。それに対し、bは今思い出せるのはほんの少しだけだということを単に客観的に述べているように思われる。例20) はさらに明らかに意味の差が感じられる。aは「最高級ワインを飲みくらべる」という先行文脈から、「お金が少しかかる方法」ではなく、「多額のお金がかかるのは当たり前だが、予想するほどの大金がかからない方法」という意味が読み取れる。逆に、bは、「少額なお金がかかる」ということを表している。

したがって、「大して」は修正された後の量的度合いは「あまり」を包含しているようで、それより大きいと思われる。なぜ多くの場合は差

が感じられないかということ、二つの副詞は否定構文で同じくかなりの大量に達していないことを表すからである。具体的な文脈に置かれないうと、細かいところまでの差が見分けられないと考えられる。

③ 頻度限定

- 21) a. 四年生になってからは、論文のための実験がいそがしく、大学の近くに下宿していて、めったに小田原には帰って来なかった。  
 (『空想列車』)
- b. あまり小田原には帰って来なかった。
- 22) a. 東京にいる新吉はお祖父さんの家にあまり行きません。(『深い河』)
- b. 東京にいる新吉はお祖父さんの家にめったに行きません。
- 23) 演歌をつくりたいというディレクターもめったにいない。作詞、作曲家も同様で、高年齢化でトキ同様、自然淘汰される運命であろう。(『35歳までに決まる！お金持ちになれる人なれない人』)
- 24) そして、停学が一時的であれ教育機会を奪うものであって、子どもにとって教育保障としての意味はめったになく、有害な場合が多いことを指摘する。(『教育法と教育行政の理論』)

「めったに」は頻度の極めて少ない様を表す。例21) a は典型的な用例である。それを「あまり」に取り替えると、ただ「帰ってくるのは少ない」ことになり、極めずらしいという語勢はなくなる。例22) に対しても同様である。それで、「めったに」は修正された後の量の度合いは「あまり」より小さいと考えられる。後ろの二例は、「めったに」の頻度用法ではないように見えるが、それぞれは「演歌をつくりたいというディレクターはめったに現れない」、「極めてめずらしい時だけ、停学は教育保障としての意味を持つ」とやはり頻度の極めて少ないことの強調である。このような用法は工藤真由美(1999:93)では「存在量を表

す」と捉えているが、「\*今夜の星はめったにない」という文に使われないように、基本的な存在量を表すことはできないため、やはり頻度の極めて少ない様から派生した用法だと思われる。

上述を踏まえて、否定構文で修正された後の量の度合いは大から小に並べると、

<大して>あまり>めったに>  
 のようになる。(図1)



(横軸は修正された後の量を示し、その量を度合いから少量・中量・大量に分けている。)

図1 「量的修正のNPI」の意味特徴

次に、中国語との対応について検討する。

中国語の“很”“太”は肯定文でそれぞれ「非常に・とても」という甚だしい程度と「(あまり)～過ぎる」という度を超えている程度を表し、意味が分化しているのに対し、否定詞を前にしての否定文ではいずれも「一定の程度に達していない」という物事への不完全否定を表し、意味上の分化は見られないようである。<sup>11</sup>不完全否定の場合は、一般的に、

<sup>11</sup> 吕叔湘 (1999) 《现代汉语八百词》では、“很”と“太”の用法について以下のように説明している。

“很”は形容詞の前に程度が高いことを表すが、“不很”は程度を弱めることを表す。

(吕叔湘1999: 266-267)

“太”は“太大了”“您太相信他了”のような「太」+形容詞/動詞構造では過度な程度を表しているが、“不太好”“不太满意”のような「不」+“太”+形容詞/動詞構造では、否定の程度を弱めることを表す。

(吕叔湘1999: 526)

「あまり～ない」と訳す。

25) 原文：七斤和他的女人没有读过书，不很懂得这古典的奥妙。

訳文：七斤も七斤の女房も、本をならったことがないので、こういう古典の味わいはあまりわからない。(《风波》)

26) 原文：这些年，由于林彪、“四人帮”的干扰破坏，使得一些干部知识很简单，有些还学坏了，到地方不太受欢迎。

訳文：この数年、林彪、「四人組」による妨害、破壊のために、一部の幹部の知識はとても貧弱なものになり、なかにはよくないことをおぼえた者もあり、地方へ行ってもあまり歓迎されていない。

(《邓小平文选 第二卷》)

ただし、“很”“太”を強く発音する場合は、甚だしい程度に達していないことを表す。<sup>12</sup>この場合は、「大して」と訳す場合が増えるらしい。この点も「大して」は「あまり」より語勢が強いことを裏付けている。

27) 訳文：阿Qは多少不安ではあったが、たいして苦しくはなかった。

原文：阿Q虽然有些忐忑，却并不很苦闷。(《阿Q正传》)

28) 原文：我对这件事，兴趣并不太大。不想与许恒忠往下扯。

訳文：おれは彼の結婚に大して興味があるわけではない。許恒忠といつまでも話している気はなく…(《人啊，人！》)

次に、「大して」「あまり」「めったに」の中国語訳文について見る。「あまり」は以下の最初の二例のように、ほとんど物事を否定しているような解釈ができるのに対して、「大して」は「それほどでもない」としか解釈することができない。(例31) こういうところも「あまり」は

<sup>12</sup> 王力(1944:251)では、“很”は文が成立するための文法機能詞として振る舞う場合は弱く発音するが(例えば、“他人很好”の“很”には程度の修飾作用がない)、形容詞の高程度を表す場合は“很”を重く発音しポーズを入れる。

「大して」より肯定した量の度合いが小さいことの証拠である。一番度合いの小さい「めったに」は“很少”（「極めて少ない」）“难得”（「得難い」）“不容易”（「容易くない」）“几乎”（「ほとんど～ない」）“很难”（「非常に難しい」）“极少”（「ごく少ない」）などと意識するのが一般的である。（例32）

29) 原文：彼はただあまり裕福とはいえない家庭のいささか真面目すぎる三男坊にすぎなかったのだ。

訳文：他出生在一个经济并不充裕的家庭，是家里不无迂腐的第三个男孩儿。（『ノルウェイの森』）

30) 原文：日本人の場合、たまたま会った相手の仕事に興味をもったから、あるいはその人物に好感がもてるからなどという理由で、第三カテゴリーの人に近づき、一生つづくような重要な人間関係をもつということはきわめてまれである。そういう習慣や趣味もあまりない。

訳文：日本人几乎没有这种习惯和兴趣。（『適応の条件』）

31) 原文：然し一般の経済状態は大して豊だと云う程ではありませんでした。

訳文1：但是，她们的经济状况还说不上很富裕。

訳文2：但是她家一般的经济状态，不能说是太丰裕。（『ころ』）

32) 原文：減多に笑った事もないが、余計な口をきいた事もない。

訳文：他既难得一笑，也很少多嘴。（『坊ちゃん』）

#### 4. 2 否定構文での特殊な婉曲的用法

婉曲的な用法について、馬清華（1986）の研究が代表的である。馬氏は“不x”（“不大”“不太”“不很”など）を婉曲的な否定形式とし、その形式には二種類の否定的意味があり、それぞれ「A：徹底的否定（＝

“不A<sup>13</sup> + 婉曲的色彩)」、「B：ほぼ徹底的否定(≠Ax) + 婉曲的色彩」としている。Aにおいては、言葉を和らげるために、婉曲的色彩は外在的、不分明で、表層的な面で働く。Bにおいては、断定的に言わないため、婉曲的色彩は外在的、表層的な面でも働けば、内部的、深層的な意味も持つ。ということから、馬氏は“不太”“不很”の部分否定の用法をも婉曲的用法とした。周小兵(1992)は“不太+A”について、「S1：不太A=不A」(「婉曲的否定」)、「S2：不太A=比较A(「わりとA」)」と二つの意味があることを指摘した。筆者は周氏の否定的意味を緩和させるためのS1だけが婉曲的な否定であることについては賛成するが、S2の意味に“比较A”だけがあると思わない。文脈によって、S2の意味は“比较不A”(「わりとAではない」)になる場合もある。<sup>14</sup> 婉曲的な否定というのは、本当に部分的に否定するのではなく、否定的な態度・意見をさらけ出すのを避けるような、一種の話の和らげ方である。

33) 参加演出的演员们, 只有蓝马是演过二十多年戏的老演员, 其他的演员都很年轻, 过去演戏不多, 生活体验不很丰富, 连表演上的基本训练都还缺乏。(《〈万水千山〉为什么演得那么好》)

34) 10秒71虽然比美国的“花蝴蝶”格·乔伊纳的世界纪录还差0·22秒, 但谁心里都清楚, 10年前乔伊纳在汉城奥运会上创造的纪录不太纯净。(《厦门晚报 1998-5-13》)

例33)は“很年轻”という文脈からも判断できるように、話し手の否定的な態度がわかる。ただ否定的な断言を避けるため、“很”を加えたのである。例34)は、“纯净”(「純粹で清浄であること」)は程度性が考えられない二者択一の語であって、“比较(不)纯净”などは考えられ

<sup>13</sup> Aは形容詞を代表する。

<sup>14</sup> “比较A”：今天天气还不太冷。(比较冷) (「今日の天気はわりと寒い」)  
“比较不A”：今天天气不太冷。(比较不冷) (「今日の天気はわりと寒くない」)。

ないので、“不<sup>レ</sup>太”は一種の婉曲表現であることが明らかである。

一方、日本語の方は、『副詞の意味と用法』（国立国語研究所）は「和らげ」「ほかし」などを副詞の間投的な用法とし、強調とは逆に、述べることを和らげたり、はっきり言い切ることを避けるための用法であるとしている。さらに、「断言を避ける方策が随所に、ほとんど無意識に、挟み込まれている。これらは実際に数量や確実性の度合いを限定する程度副詞として用いられることが多い。また、否定的な見解など言いにくいことを述べる場合には、これらの副詞をより意識的に用いることで遠慮が示される（pp88-89）」との指摘もある。「あまり」のような否定文において、量的序列に中間的位置を占めるものは婉曲的な否定用法を持ちやすい。次の幾つかの例は中国語訳文も付いているので、「あまり」の婉曲的用法だと考えられる。

35) 原文：学業成績が劣る。知能の点ではかわりがないのに、成績があまりかんばしくない。

訳文：学习成绩不突出，智力虽不差但成绩总不理想。

（「成績が一向に芳しくない」）（『ひとりっ子の上手な育て方』）

36) 原文：またそれとても、個人的契約に過ぎないものであって、法律的にはあまり効果はない。

訳文：而且这完全是个人的契约而已，没有任何法律效力。

（「法律的には何の効果もない」）（『タテ社会の人間関係』）

37) 原文：ちょうど梯子段の上り口のところに、慶応の学生らしいのが五六人うじゃうじゃして、それがジロジロ私とナオミの様子を見るのが、あまり好い気持はしませんでした。

訳文：通向二楼的楼梯口乱哄哄地挤着五六个人，好象是庆应大学的学生。他们瞪大眼睛看着我和纳奥米，那副样子使我心里不舒服。

（「いい気持ちではない」）（『痴人の愛』）

## 5. 不完全否定を表す副詞の構文面の日中対照

この節では、構文面から否定と共起する不完全否定を表す副詞の日中対照研究を行いたいと思う。「構文的位置」「共起する述語のタイプ」の順に考察していく。

### 5.1 構文的位置

山田小枝（1997：194）は通言語的にNPIと否定詞の位置について、「否定詞が文末に置かれNPIは否定の予告をするという発話機能上の理由により、NPIを否定詞からあまり遠くに置くことはできない。否定作用域がそこまで広がっていると解釈されるからである」と述べている。ということから、NPIである「あまり」「大して」「めったに」は下記の例のように否定述語の直前か少し離れているところか、同一単文中に位置するのが一般的である。

- 38) a. 父からは月七十五ドルの仕送りを受けていたし、そのころは食べ物の値段もあまり高くなかったのだ。（『Meキャサリン・ヘプバーン自伝』）  
 b. 父からは月七十五ドルの仕送りを受けていたし、そのころはあまり食べ物の値段が高くなかったのだ。
- 39) a. 逆にもし宝クジを買っていたとしても、結果はたいして変わらないと思います。（『たぬきランド』）  
 b. 逆にもし宝クジを買っていたとしても、たいして結果は変わらないと思います。
- 40) a. めったに人の前に姿を現わしません。（『動物研究者ダイアン・フォッシー』）  
 b. 人の前にめったに姿を現わしません。

しかし、次のような否定繰り上げの現象はよく日本語に起こる。各例

文のaとbは意味的に差がないと考えられる。

- 41) a. 反対に、能登では、カツオをあまりうまい魚だと思わない。  
(『塀の中のおろぎ』)  
b. 反対に、能登では、カツオをあまりうまくない魚だと思う。
- 42) a. あの時はたいして悪いことだとも思わなかったから。(『ハッピーバースデー』)  
b. あの時はたいして悪くないことだと思った。
- 43) a. めったにあることではないそうだが、漁師冥利につきるご馳走に出会うことができた。(『相模湾のうまいもん』)  
b. めったにないことであるそうだが、漁師冥利につきるご馳走に出会うことができた。

山田小枝(1997:194)は「否定繰り上げの場合には同一単文中に否定辞がなくてもNPIが生起できる。繰り上げで多いのは思考動詞あるいはそれに類するものが主文にあり、本来否定されるはずの従属文の代わりに主文の述部が否定される場合である」としている。「思う」などの思考動詞が繰り上げを起す主なものである。工藤真由美(2000:113)もこのような現象が起こるのは「思う、考える、見える」のような動詞であると指摘した。

中国語の“很”“太”は通常は否定詞の直後に来るが、“算”“是”“有”などを隔てて生起することも可能である。<sup>15</sup>また、日本語と類似して、思考動詞を隔てて生起できる。この場合は、思考動詞を否定しているようだが、実は後ろの程度副詞を否定している。意味的には、bと同じの場合もあれば、違う場合もある。例えば、次の例では、bの“太”を強く発音すれば、aとほぼ同じ意味になる。

- 44) a. 我们并不想太心理主义地看待本体论或认识论的问题，但是，不承认心理因素在建立这些理论时的作用，也不是科学的态度。(《权

力的祭坛》)

b. 我们并不太想心理主义地看待本体论或认识论的问题，但是，不承认心理因素在建立这些理论时的作用，也不是科学的态度。

45) a. 以前不觉得一个人的日子很孤寂，可是少了一股自然的茶香味，整个人完全不对劲了，以前嫌小的蜗居突然变得宽敞得吓人，冷清得连根针落地都听得清清楚楚。(《蓝色酒馆》)

b. 以前觉得一个人的日子不很孤寂，可是少了一股自然的茶香味，整个人完全不对劲了，以前嫌小的蜗居突然变得宽敞得吓人，冷清得连根针落地都听得清清楚楚。

また、日本語の方は口語で単独で使える場合がある。これはそれらの語に備える否定を予告する機能がゆえに、否定述語の部分が省略されても否定の意味に不都合はないと思われるからである。下記のような述語省略文では先行文脈に見られる類似的な構造が省略されている。

46) 「ワタナベ君、あまりおなかすいてないの？」と緑が熱いお茶をすすりながら言った。

「うん、あまり-(すいてない)-ね。」と僕は言った。(『ノルウェイの森』)

47) 「それはね、ちょっと噛みつきます」

「飼うのは、難しくないですか」

「たいして-(難しくない)」

「成鳥でも」

「ええ。卵は一個でしたよ。白い色をしていました…」(『馬の岬』)

<sup>15</sup> 例1 “我不算很老，”他木然地介绍自己……(《短篇小说》) (「それほど年を取っていない」)  
例2 想想也对，依织才是小孩，而夜雨也不是很大，这样可是能‘剩’下半张床。(《网游之天下第一》) (「夜雨はそれほど大きくはない」)

48) 小西の要請を危険だと退けて、少女救出に失敗すれば…。

「死なない自信があるのかね」

「めったには-(ない)」小西は低い声で笑った。

「少女を救うことができない上に、君まで死ぬことに」(『犬笛』)

一方、中国語の“不很”“不太”は後ろの述語が省略できないが、意欲を表す動詞<sup>16</sup>の伴った場合は省略できる。

49) a. “你想去吗？” \* “不太-(想去)。”

b. “你想去吗？” “不太想-(去)。”

## 5. 2 共起する述語のタイプ

日中両言語の不完全否定を表す副詞が否定文で共起する述語のタイプを形容詞述語、動詞述語、名詞述語の順に考察していく。

### 5. 2. 1 形容詞述語

まず、中国語の場合は、“不很”“不太”は形容詞述語との共起は動詞述語より多く、BCCコーパスで調べた共起比率はそれぞれ68.31%と57.41%である。そのうち、プラスの意味を持つ語は一番多く、婉曲的否定に多用する。マイナスの意味を持つ語は婉曲的否定という解釈にならない。中性的意味を持つ語は少し複雑な様相を呈する。C 1タイプは意味的に対になっている語が多く、文脈によって量的修正か婉曲的否定かと解釈するが(例54, 55)、C 2タイプは量的序列になじまない極限の状態で、“一样/一致/纯净/满”のような二者択一のものはまだ婉曲的否定の意味で共起できるが(例56)、“漆黑/白花”のような全く程度性

<sup>16</sup> 中国語で言うと“情态动词”“能愿动词”である。

が考えられないものとは共起しない。

A <不很/太+プラスの意味の語>

不很/太 漂亮/开心/舒服/勇敢……

50) 母亲说：“姑娘嘛，虽不很美，但性格文静，还是很不错的”（《泰戈尔中短篇小说集》）<婉曲的否定>

51) 她微笑一下，“她——美吗”

“不很美，比不上小瑾母亲的一半，”他摇摇头，“可是美、丑并不代表什么，你懂吗”（《烟水寒》）<量的修正>

B <不很/太+マイナスの意味の語>

不很/太 老/笨/坏/痛/守旧/危险……

52) “我老了，是吧”

“不很老”（《巴济里奥表兄》）<量的修正>

53) 半晌，他一笑：“我是不是很笨”

“不很笨——是有一点笨”（《秦俑》）<量的修正>

C <不很/太+中性的意味の語>

不很/太 C 1 远/近/高/低/深/浅/早/晚/红/酸……

C 2 一样/一致/纯净/满/\*漆黑/\*白花花……

54) “黄土高原上向来有‘望山跑死马’的说法，这里的人也习惯按他们的思维来分析问题，他们说的‘不太远’或许意思是说走上不到一天的时间就可以到！”（《中华游龙》）<婉曲的否定>

55) 卢九道：“这么样说来，那屋子离这里一定并不太远了” 段玉道：“好象是不太远”。（《碧玉刀》）<量的修正>

56) 「喂，那应该叫做监禁吧？」「跟监禁不太一样，并不是监禁……只不过，稍微隔离一下而已……」（《蓝色学者与戏言跟班》）<婉曲的否定>

次に、日本語の場合は「あまり」「たいして」は形容詞述語との共起は動詞述語ほど多くない。<sup>17</sup>「めったに」は頻度を表すため形容詞述語とは共起しない。

例 あまり/たいして/\*めったに 高くない/明白ではない/嬉しくない…

そして、中国語と同じように、「あまり」と「たいして」が共起する形容詞述語をも語の性質によって三つのタイプに分け、その特徴について考察する。

A<あまり/たいして+プラス的意味の語>

あまり/たいして 美しくない/嬉しくない/良くない/勇ましくない…

57) それは、みればわかることかもしれないが、文章の意味が一応通じて、流れはあまりきれいではない。(『日本人の英語』)

<婉曲的否定・量的修正>

58) たいして可愛くない子にも可愛いつて言ったりしているのを見るのですが。(『Yahoo! 知恵袋』) <量的修正>

「あまり」の方は文脈によって量的修正か婉曲的否定かと解釈するが、「たいして」の方は<量的修正>にしかない。

B<あまり/たいして+マイナス的意味の語>

あまり/たいして 痛くない/悪くない/嫌いではない/まずくない…

59) 最初は誰だって痛いもの。その覚悟さえあれば、あとはたいして痛くないはずである。(『刺青の真実』) <量的修正>

60) 私はこういうインチキ臭い男があまり嫌いではない。(『東欧見聞録』) <量的修正>

<sup>17</sup> 形容詞は多くの場合、後ろの動詞や「～がない」などの状態性述語を性質面から限定し、「不思議に思わない」「良い印象がない」「大きな差をつけない」の形で「あまり・たいして」と共起する。

マイナスの意味を持つ語と結合して、予想していた程度ほど高くないという量的修正になる。

C<あまり/たいして+中性的意味の語>

あまり/たいして C 1 高くない/低くない/遠くない/近くない/深くない/浅くない/赤くない/辛くない…

C 2 \*同じではない/\*真っ暗ではない/\*真っ白ではない…

61) スリムな体つきで、背はあまり高くない。(『逆転の歯車』) <量的修正>

62) 「そりゃ遠い所をわざわざ…」

「なに、たいして遠くはありません。新幹線で一時間半ですから…」(『犬のいる窓』) <量的修正>

中性的なC 1タイプと共起する場合、「あまり」は文脈によって量的修正か婉曲の否定かと解釈するが、「大して」は量的修正になる。量的序列になじまない極限の状態のC 2タイプとは共起しない。この点は中国語と大きく異なる。

## 5.2.2 動詞述語

中国語の場合は、“不很”“不太”は一般的に程度性を内包している心理動詞と可能・意欲を表す動詞と共起する。また、一部の<動作動詞+“得”+補語>という可能を表す<V得C>形とも共起できる。さらに、一般的に程度副詞が修飾できない動作・行為を表す動詞の頻度や動作量をも修飾できるようである。(例63), 64) この点からは、“不太”“不很”は一つの複合語として、程度副詞の意味が弱化され、弱否定を表す副詞になる傾向があると言えるのではないか。但し、量的序列のなじまない絶対の状態を表す動詞や状態変化動詞などとは共起しない。

<心理動詞>理解 明白 了解 熟悉 知道 懂 注意 相信 喜欢 奇怪 想  
满意 放心 同情……

<可能・意欲>会 愿意 敢 应该 值得 乐意 可能……

<V得C>看得惯 吃得下 读得懂……

<動作動詞>吃 喝 看 说 走……

<共起できない動詞>\*忘记 \*开始 \*结束 \*毕业 \*改变……

63) 他总不很吃菜, 单是把酒不停的喝。(《彷徨》)

64) 你可能会说:“知道吗, 你有迟到的倾向。”或说, “我注意到你不太读书。”(《别为小事抓狂》)

日本語の場合は、「あまり・たいして」は動詞述語との共起にあまり制限を受けないようであって、程度性があるもの、または動作の量・頻度に対する修飾ならともに共起できる。(例65), 例66))「めったに」は程度性がないため、動作・行為の頻度、可能性に対する修飾が主な働きである。(例67), 例68))

65) あまり話さない。(『青少年白書』)

66) 人の本質はたいして変わらないと思います。(『Yahoo! ブログ』)

67) いずれの場合でも、自分の名前や社会的なバックグラウンドなど、基本的なことはめったに忘れないという。(『クリムゾンの迷宮』)

68) 南万代FC選手の小島夏輝君(八つ)は「広いところなので緊張した。でも、めったにプレーできない所なのでよかった」とうれしそうだった。(『新潟日報10/9/01』)

### 5.2.3 名詞述語

両言語はともに“量度義(「量性」)”を包含する名詞が修飾できる。張谊生(2000:164)は「量性」を包含する名詞を三つのタイプに分けている—“語素包含類(「語素包含類」)”“语义蕴含类(「意味包含類」)”

“语境赋予类（「文脈付与類」）”である。

中国語の“不很”“不太”の場合は、BBCコーパスで調べた結果、以下のような名詞と共起できる。

<語素包含類>淑女、粗线条、专业……

このタイプの名詞は前の語素自体量性を含んでいる。“淑”“粗”“专”は形容語素で、それぞれ「淑やか」「太い」「専門的」という意味である。

<意味包含類>脓包、狗血、绅士、经济、职业……

このタイプの名詞は、それ自体は量性を含んでいないが、派生義、比喩義に量性が含まれている。例えば、“脓包”の比喩義は「意気地なしの人」で、“狗血”の派生義は「大げさなでたらめなこと」である。

<文脈付与類>男人、女人、大众……

このタイプの名詞は、その意味自体に量性がなく、程度副詞の修飾を受けて初めて名詞が示した属性に量性が生まれる。「どこまで名詞らしいか」と解釈される。

一方、日本語の「あまり」と「たいして」は量性のある名詞と共起するが、「めったに」は頻度限定であるため、名詞とは共起しない。しかし、「あまり」と「大して」は名詞と共起する幅が中国語より狭く、例えば、語素包含類の「美人」とは共起し得るが、「淑女」「専門」などとは共起できない。後ろに形容（動）詞化するための「的」、「らしい」の付加が必要である。「名詞+的（らしい）」という形容動詞形態にすれば初めて量性を持つようになると思われる。中国語の程度副詞に修飾される名詞はかなり形容詞化されていて、日本語の「的」の付加が必要としない形容動詞と似ているとも言えるのではないか。

あまり/大して 美人ではない/問題ではない…

あまり/大して |\*淑女/\*専門/\*紳士/\*経済/\*プロ/\*男/\*女…|

ではない

## 6. 終わりに

本稿は大量な実証調査によって、日本語と中国語の不完全否定を表す副詞について、日本語の「あまり」「大して」「めったに」と中国語の“很”“太”に焦点を当て、共起指向、意味面、構文面という三つの側面から対照研究を行った。まず、共起指向について、日本語の「あまり」は中国語の“很”“太”と同じく肯定・否定とも共起できるが、肯定文で構文的制限を受け、否定文での生起が主な働きである。「大して」「めったに」は否定のみと共起する。異なる共起傾向の原因は量的度合いに含まれると思われる。次に、意味面では、五つの副詞の基本的な意味は「減量」という量的修正を表す。中国語の“很”“太”は否定構文で肯定構文ほど明白な量的序列をなしていないのに対して、日本語の三つの副詞は否定構文で<大して>あまり>めったに>のような量的序列をなしている。また、基本的な意味から派生したと思われる「婉曲的用法」も“很”“太”「あまり」に観察される。最後に、「構文面」において、基本的な構文的位置及び否定繰り上げ現象、日本語の単独で述語になれる現象、共起する述語のタイプという様々な構文面で両言語の異同について考察した。今後、指示副詞や中国語の“范围副词”による不完全否定についても考察し、論を深めたいと思う。本稿は、不十分な点多々有ると思われるが、両言語の副詞学習や教育に少しでも役に立てれば幸いに思う。

## 参考文献

### 日本語文献

- 井島正博（2013）「副詞句と否定文」『成蹊大学一般研究報告』47-7  
 工藤浩（1983）「程度副詞をめぐって」『副用語の研究』明治書院  
 工藤浩（2000）「副詞と文の陳述的なタイプ」『日本語の文法3モダリ

ティ』岩波書店

工藤真由美（1999）「否定と呼応する副詞をめぐる：実態調査から」

『大阪大学文学部紀要』39

工藤真由美（2000）「否定表現」『時・否定と取り立て』岩波書店

国立国語研究所（1991）『副詞の意味と用法（日本語教育指導参考書

19）』大蔵省印刷局

時衛国（2003）「程度副詞与形容词的否定形式」《共通科目研究交流誌・

教养と教育》第3号愛知教育大学共通科目研究委員会

時衛国（2009）「「太」と「あまり」」『中国語と日本語における程度副詞

の対照研究』風間書房

時衛国（2009）「「很」と「とても」」『中国語と日本語における程度副詞

の対照研究』風間書房

時衛国（2011）『中国語の程度表現の体系的研究』白帝社

服部匡（1993）「副詞「あまり（あんまり）」について」『同志社女子大学

学術研究年報』44-4

本田キョウ治（1981）「日本語の否定構文（1）」『静岡大学教養部研究報

告』（人文・社会科学）17-1

森田良行（1989）『基礎日本語辞典』角川書店

山田小枝（1997）『否定対極表現』多賀出版

渡辺 実（1990）「程度副詞の体系」『上智大学国文学論集』

## 中国語文献

葛金龙（2012）“汉语的否定极性副词”《汉语学习》2012（1）

刘华丽（2012）“浅析副词‘不大’”《汉字文化》2012（2）

吕叔湘（1999）《现代汉语八百词》商务印书馆

马清华（1986）“现代汉语的委婉否定格式”《中国语文》1986（6）

王 力（1944）《中国语法理论》商务印书馆

王 力（1985）《王力文集第二卷：中国现代语法》山东教育出版社

吴伟丽（2017）“现代日语程度副词分类再考”《日语学习与研究》2017  
（2）

尹洪波（2011）《否定词与副词共现的句法语义研究》外语教学与研究出版社

张谊生（2000）《现代汉语副词研究》学林出版社

周小兵（1992）“‘不太A’析”《世界汉语教学》1992（3）

#### 英語文献

Jespersen, O. The Philosophy of Grammar, London: George Allen & Unwin Ltd., 1924.